

今年度一般質問

Q&Aダイジェスト

その他の質問は、くらのえみこ
ホームページ議会報告をご覧下さい

災害用家庭トイレの普及について

(平成29年6月一般質問)

問 … 国の防災基本計画では、家庭の携帯トイレ備蓄数を最低3日間、推奨1週間分としているが、必要性への認識が浸透していない。N P O等と協働し、マンションや地域ごとのきめ細かい啓発をすべきでは。

答 … 防災訓練等で必要性を強調するとともに、民間と協力したP Rを工夫したい。



蔵野 恵美子 議員

受動喫煙対策について

(平成30年2月一般質問)

問 … 平成32年のオリンピック開催に向け、国会では受動喫煙対策に関する法案が成立しようとしている。本市でも各業界との意見を調整し、具体的な施策で受動喫煙に対する姿勢を示す時期にきていた。特に子ども・子育て応援宣言を掲げる市長が「子どもの受動喫煙防止」の施策を進めることで、よりメッセージ性が高まると考えるが見解は。

答 … 市民や各業界との連携協力を深め、より実効性の高い受動喫煙防止対策を講じてまいりたい。

地域と共生する保育園について

(平成29年9月一般質問)

問 … 地域と共生する保育園を目指し、介護施設や市民協働スペース等を併設した複合型保育施設の開設や、保育園と地域を繋ぐコミュニティコーディネーターの配置を提案するが、見解を伺う。

答 … 開放的な施設の可能性を追求し、地域に受け入れられる方法や支援を研究したい。



答 … 市民や各業界との連携協力を深め、より実効性の高い受動喫煙防止対策を講じてまいりたい。

歯科口腔保健の推進について

(平成30年2月一般質問)

問 … 本市では歯科口腔保健の推進に関し、健康推進計画に記載し施策の実効性を担保していることであるが、歯科医と学校・児童相談所との連携による虐待予防への対応や、障害児者の歯科検診・治療に関するデータや対応等、計画をより充実させる必要があると考えるが見解は。

答 … 関係機関とさらに連携を密にして取り組んでいきたい。



融雪剤の配布について

(平成30年2月一般質問)

問 … 東京は今年4年ぶりの大雪。寒波の影響で歩道のアイスバーンが解けず、長い間不便で危険な状態が続いた。今回の経験を踏まえ、融雪剤を市内各コミセンや小中学校に配布・保管いただき、近隣の方々の自助による除雪が進む工夫を提案するが見解は。

答 … コミュニティ連絡協議会を通じてご意見を伺い配布をしたい。



3人乗り自転車・大型自転車について

(平成29年6月一般質問)

問 … 平成21年の道路交通法規制改正で3人乗り自転車が合法化されたことを受け①自転車等総合計画等へ3人乗り自転車に関する反映②子育て支援の視点で、レンタル事業に3人乗り自転車の導入等を提案したい。

答 … ①次回の計画に反映していきたい②他自治体やニーズ等も把握し研究したい。



武蔵野アーリュブリュットの展望について (平成29年9月一般質問)

問 … 国や都がアーリュブリュット事業に大きく動き出している。今こそ連携し本市のさらなる展開につなげることを提案したい。

答 … 実行委員会を中心に、国や都、他の地域とも連携していきたい。

問 … 福祉的から芸術的側面を主体としたアーリュブリュット事業拡大に伴い、著作権等、障害者福祉課を超えた取組が予想されるが見解は。

答 … 武蔵野文化事業団、オリパラリンピック、吉祥寺美術館事業等にも位置づけたい。

注目! 平成30年度には市内文化施設・小中学校での公演や、商業施設との連携事業等、さらなる展開が実現予定。



7月 市内初アーリュブリュット展

都市公園法改正を受けた、市内公園の展望について (平成29年11月一般質問)

問 … 都市公園法改正に伴い、アスレチック施設やドッグランの設置など、より柔軟に多様な市民ニーズに対応した活力ある公園展開が可能になると考えるが、見解を伺う。

答 … 民との連携による公園の魅力向上の仕組み作りの検討や、アスレチック施設・ドッグランの設置など、引き続き都に要望する。

注目! 都市公園法改正により、市民の貴重な資産である公園を、これまで安全に維持管理するという視点が大半でしたが、それに加え、今後は柔軟に活用・運用することが求められます。



10月 建設委員会視察
滋賀県大津市の大津湖岸なぎさ公園
都市公園法改正を受けたモデル公園の一つ。



テナントミックス施設整備事業として、公園の整備は市が実施し、園内のオープンカフェの整備運営は民間が主体。近くには県立芸術劇場びわ湖ホールという立派な劇場があり、さらなる来場者につながっている。

編集後記

先日、「仕事」をテーマとするママさん主催の勉強会に参加させていただいた。
育休中の女性、最近パートを始めたという女性、介護職での苦労話等々、悩みや焦りなど話が尽きない。女性の場合、配偶者の転勤や、出産・育児、介護等、環境の変化で仕事を変え、中断せざるを得ない状況が起こる。その結果「働くことの意義とは?」と悩み、迷いも多いのかもしれない。
一方、ここ数年、市役所男性職員の育児休暇取得率は確実に増えている。
また地域では、ボランティア、若い世代の創業やN P O、シルバー人材センター等多様な働き方が見られるようになった。
人生100年時代、自分なりの働く意義を持ちながら、状況に応じ、時にはゆるやかに、波はあれども生涯働き続けられる環境が求められていると感じる。
メディアからは「働き方改革」「裁量労働制」「過労死」などのニュースが聞こえてくるが、身近では一足早く「草の根 働き方改革」が起こり始めているように思う。

